

戦略策定にあたり、この町のことを オブザーバーの大山所長に伺いました

私は、フランス語を話せるということからキュリー祭に招かれるようになり、そこからこの町との縁ができ、いまや三朝の大ファンの一人です。これまでの町との関わりから今回、「まち・ひと・しごと創生推進会議」において、助言者という立場でこの町の今後の在り方などについて講演をさせていただきました。

今回は、その講演のポイントを皆さんに紹介させていただきます。

まず、三朝町の産業を統計的に見ますと、旅館業やサービス業が非常に大きいという特徴があり、これは県平均の約 2 倍近い数値です。また、就業人数においては、飲食店・宿泊業と医療・福祉の 2 つが中心となっています。つまり三朝のコアとなるこの 2 つをどう生かすかがカギになると思います。

このうち、三朝温泉においては世界屈指の高いラジウム濃度を持っており、それが体に非常に良いということをきちんと宣伝し、さらに病院機関とも連携しながら



日本銀行鳥取事務所 大山 陽久 所長



湯治のような形で外部から人を連れてくるということが可能だと思っています。

また、三朝はフランスとのつながりがありますが、これは一つの武器になるものだと思います。毎年行われているキュリー祭にはフランスの偉い方が来られますので、その場面で三朝の良さを存分にアピールすることも重要です。実は、私は 8 年ほどフランスにいたことがあり、彼らは「良いもの、伝統的なもの」を評価することができると思っています。

地方創生は今、全国どの市町村も戦略を練り、策定をしています。この町においての戦略のスタートラインとなるのは、住民皆さんの意識を統一することにあると考えています。核となる三朝温泉への投資は、決して温泉街のためではなく、町全体が潤い、将来にわたって幸せな町づくりとなるための大きな視点に立つことを意識していく必要があります。これは心をそろえるということにもつながり、戦略を運用していくうえでは皆さんと心を統一することも重要となります。

私は仕事柄、日本全国、世界各地を見て回ってきました。その中であつても三朝温泉というのは他に秀でたものがあります。わざわざ行ってみたいと思えるほどの価値ある財産です。それを磨き、伸ばすことにこの戦略の未来はあると思います。また、この計画ができたからといって成果はすぐには出ないと思います。しかし、温泉と医療という 2 つに力を注ぐことにどつしりと腰を据え、進めていくことで 10 年後、20 年後、さらには 50 年後、この町の未来はきっと変わってくると信じています。

戦略の今後

町では、今回策定した戦略をもとに、具体的事業を実施していくこととしています。

また、定期的に事業の評価を行い、見直しも図っていきます。そして、確実に施策を展開していくための仕組みを整備するとともに、取り組み体制を確立し、必要となる関係機関などの連携を推進していきます。

今後、避けては通れない道となる人口減少社会

その中であつても、今と変わらない幸せを感じることができ
る「心豊かで「キラリ」と光る町」にするため、いつまでも住
み続けたい活気あふれる町とするため、町全体が一丸となる時
が今、訪れています

【問合せ先】 役場企画観光課地方創生戦略室 (☎ 4 3 1 3 5 1 4)

